

第6学年1組 社会科学学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 10:20～11:05 【場所】6年1組教室 【指導者】堀元 公幹

本授業の参観の視点

鎌倉時代から始まる武士による政治が行われた時代と、それまでの天皇や貴族による政治が行われた時代では、どちらの方がよりよい社会なのかについて、「追究の視点」を生かして話し合う姿をご覧ください。

1 単元名 武士による政治のはじまり

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの3つの歴史的事象を取り上げ、問題解決的な学習を進めることで、天皇や貴族に代わって武士による政治が始まったことを理解するとともに、我が国の歴史の展開を考えていくことをねらいとしている。

これまでの学習では、聖徳太子の政治や大化の改新によって政治のしくみが整えられ、聖武天皇によって天皇中心の政治が確立されたことや、藤原道長について調べることで貴族が次第に力を付け、政治を行っていったことを学習している。本単元で学習する鎌倉時代になると、領地を大切にしながら武芸に励んでいた武士が初めて登場し、天皇や貴族に代わって政治を始めることとなる。そこで、前単元で学習した天皇や貴族が政治を行っていた時代と武士が政治を行っていた時代の比較をしながら学習を進めていく。そうすることで、より広い視野で武士が政治を行っていた時代を捉えることができると考えたからである。そして、単元終末でどちらの時代の方がよりよい社会だったのか検討をしていく。つまり、歴史的事象を単に過去に起きたものとしてのみ捉えるのではなく、当時の社会にどのような影響を与えていたのかということや現代及び未来を生きる児童の立場で評価していくのである。このことは、様々な課題が山積している現代社会において、よりよい社会のあり方を多様な見方で多角的に考えていく力、公民としての資質・能力の基礎を育てていくことにつながる意義あることと考える。

なお、本単元で学習する「我が国の歴史上の主な事象」は、中学校で学習する「中世の日本」につながるものである。

(2) 児童について

本学級の児童は、各単元の終末で「追究の視点」を用いて議論を行っている。「縄文・弥生・古墳時代で、どの時代がよい社会といえるか」の議論では、お互いに意見を述べ合うことを通して、【争い】【食料の安定】【文化・技術の発展】【身分差】という4つの視点を見いだすことができた。この4つの視点を歴史分野における「追究の視点」とし、活用していくこととした。一方で、学習したことを基に自分の考えを主張することができた児童は6割程度であった。根拠となる資料を提示し、事実と考えを分けて説得力のある主張をする力が十分に育っているとは言えない。また、事前アンケートによると、「武士」や「鎌倉幕府」という言葉は9割以上の児童が知っていたが、武士のおこりや鎌倉幕府のしくみを説明することができたり、時代背景まで理解したりしている児童は1割にも満たなかった。これらのことから、本単元では衣食住等の資料を読み取る視点を具体的に提示することで、これまでに学習してきたことと比較できるようにし、多様な見方で多角的に捉えられるようにすることでより深く歴史的事象に迫れるようにしていきたい。

また、本単元において、天皇や貴族による政治が行われた時代の社会と武士による政治が行われた時代の社会を多様な見方で多角的に比較・検討できるように、文化を中心に学習を進めることが多い前単元「貴族が生み出した新しい文化」においても、児童は争いが起きていたのかということや当時の人々の衣食住に関する生活について学習をしてきている。

(3) 指導について

指導にあたっては、「つかむ」段階で武士の生活が分かる資料を提示することで、貴族の暮らしと比較できるようにし、武士が領地を守るために武芸に励んでいたことを理解できるようにする。その上で、児童の疑問を基に学習問題「武士の登場によりどのような世の中になっていったのだろう」を設定し、

学習の見通しをもたせていく。次に、「調べる」段階では、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの3つの歴史的事象を取り上げて調べていく。その際、4つの「追究の視点」を活用しながら幕府や将軍など為政者の立場だけではなく庶民の立場でも歴史的事象を捉えるなど、多様な見方で多角的に捉えていきたい。これは、現代の社会においても、よりよい社会のあり方を考えていく際には、様々な立場にある人のことを考えていく必要があるからである。そして「高める」段階では、天皇や貴族による政治が行われていた時代と武士による政治が行われていた時代では、どちらがよい社会なのかということについて根拠を明らかにしながら比較・検討させる。その際、「追究の視点」を提示したり、必要に応じて教師が発問したり問い返しをしたりすることで、よりよい社会のあり方について考えることができるようにしていく。このように多様な見方で多角的に歴史的事象を捉えていくことで歴史を大観でき、「広げる」段階でそれぞれの時代の特色をまとめた歴史新聞を作成することが可能になると考える。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「同単元・領域」	「我が国の歴史上の主な事象」	・世の中の様子や人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えている。 【思考力、判断力、表現力等】	・武士が台頭してきたことや幕府の政治のしくみ、元との戦いを関連付けて武士が政治を行っている世の中の様子を考えている。
ステージB 「同教科」	「歴史と人々の生活」	・平安時代の貴族の生活や文化について、日本風の文化が生まれたことを理解している。 【知識及び技能】	・天皇や貴族による政治が行われていた時代と比較・検討している。
ステージC 「他教科」	国語科 「A話すこと・聞くこと」	・話の内容が明確になるように、事実と意見を区別するなど、話の構成を考える。 【思考力、判断力、表現力等】	・根拠が明らかになるように、資料を基にしながらよりよい社会について意見を述べている。
ステージD 「実生活・実社会」	日常の社会情勢 (ニュース、新聞)	・日常生活で見聞きしたことを、生活や学習に活用しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】	・ニュースや新聞等で見聞きした現在の社会情勢と関連付けながら、よりよい社会について考えようとしている。

ステージA～Dの回遊を通して自分なりの考えを見出していくために必要になるものが**他者の発想**との回遊である。気付きを交流する場や議論の場を設定することで、**他者の発想**との回遊が生まれる。「追究の視点」を基に、他者との関わりを通してお互いの考えを比較したり、共に考えたりすることで、よりよい社会のあり方についてさらに深まった考えをもつことができるようになる」と考える。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

武士による政治や鎌倉幕府のしくみ、当時の人々の暮らしについて理解し、天皇や貴族による政治が行われていた時代と武士による政治が行われていた時代を比較・検討することで、よりよい社会について考えることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 源平の戦いや鎌倉幕府のしくみ、元との戦いなどについて地図や年表などの資料で調べ、武士による政治が始まったことを理解している。 **【知識・技能】**

イ 調べたことを基にして、天皇や貴族による政治が行われた時代と武士による政治が行われた時代では、どちらがよりよい社会なのか考え、理由や根拠を明らかにしながら表現している。 **【思考・判断・表現】**

ウ 武士による政治について予想や学習計画を立て、調べたことを基に進んで議論に参加したり、よりよい社会について考えようとしていたりしている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

4 単元の指導計画（全8時間 本時7／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一 （つかむ）	1	○武士と貴族の生活の違いについて比較をしながら話し合い、学習問題を設定する。	・武士の生活が分かる資料を提示し、貴族の生活との違いに気付くことができるようにする。	◆武士の生活に関する気付きから、社会の様子に関心をもち、予想を立てて調べようとしている。【主】	A B 他者
二 （調べる）	2	○武士がどのようにして勢力を全国的にのばしていったのか調べる。	・平氏と源氏の戦いに関する資料を提示し、貴族が変わって武士が力を付けていったことに気付くことができるようにする。	◆平氏と源氏が勢力を広げていったことで、権力をにぎるようになったことを理解している。【知・技】	A B 他者
	3	○鎌倉に幕府を開いた源頼朝の意図と、鎌倉幕府のしくみや幕府と御家人との関係について調べる。	・北条政子の言葉から、源頼朝は土地を中心とした御恩と奉公の関係で御家人をまとめていたことを理解できるようにする。	◆御家人を守護・地頭に任命し、全国の支配を固めたことや、土地を中心として関係を結んでいたことを理解している。【知・技】	A B 他者
	4	○元軍との戦いの様子について調べる。	・「蒙古襲来絵巻」や石塁の資料を提示し、元軍と御家人との戦い方の違いを具体的に理解できるようにする。	◆鎌倉幕府や御家人が元軍との戦いに備え、退けたことを理解している。【知・技】	A B 他者
	5	○元軍との戦い後の、鎌倉幕府と御家人の関係について調べる。	・生活が困窮していたことや御恩を得られなかったことで御家人の不満が高まっていったことを理解できるように、竹崎季長の事例を取り上げて劇化する。	◆鎌倉幕府が御家人に十分な御恩を与えることができなかつたために、御家人の不満が高まったことを理解している。【知・技】	A B 他者
三 （高める）	6	○天皇や貴族による政治が行われた時代と武士による政治が行われた時代では、どちらの方がよりよい社会だったのか検討する。	・これまでに調べた資料や自分で収集した資料を根拠として意見をもてるように、これまでの歴史単元において活用してきた4つの「追究の視点」を確認する。	◆資料を基に、よりよい社会のあり方について考えている。【思・判・表】	A B C 他者
	7 本時	○天皇や貴族による政治が行われた時代と武士による政治が行われた時代では、どちらの方がよりよい社会だったのか議論する。	・問い返しをしながら、資料を基に「追究の視点」に沿った議論を進められるようにする。	◆事実を基に意見を述べたり、「追究の視点」を基に話し合ったりしながら、よりよい社会のあり方について他者の考えと比較・検討しながら意思決定をしている。【思・判・表】	A B C D 他者
四 （広げる）	8	○議論の中で生まれた新たな疑問や、よりよい社会のあり方について調べてまとめる。	・「追究の視点」を意識して調べるように促す。	◆新たな疑問を解決するために、意欲的に調べようとしている。【主】	A B D

5 本時の指導（7／8）

(1) 指導目標

天皇や貴族中心の時代と武士中心の時代を比較・検討し、「追究の視点」を基に話し合うことで、よりよい社会のあり方について自分の意見を決定することができるようにする。

(2) 評価規準

イ 事実を基に意見を述べたり、「追究の視点」を基に話し合ったりしながら、よりよい社会のあり方について他者の考えと比較・検討しながら意思決定をしている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（ <u> </u> ）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 本時の学習の進め方について知る。（5分）</p> <p>・どちらのほうがよりよい社会なのだろう。自分と違う立場の意見を聞いてみたい。</p>	<p>1 <u>学習してきたことを活用しながら議論を進められるように、これまでの学習で活用してきた資料等を教室に掲示しておく。（A B）</u></p>
<p>天皇や貴族中心の時代と武士中心の時代では、どちらの方がよりよい社会といえるか考えよう。</p>	
<p>2 よりよい社会について議論を行う。（30分）</p> <p>(1) それぞれの立場から意見を述べ合う。</p> <p><u>天皇・貴族派</u></p> <p>・400年近くも時代が続いていたのは、平和だったからだ。鎌倉は150年足らずで滅んでいる。【争い】</p> <p>・かな文字や年中行事など現代にも受け継がれているものがたくさん生まれている。日本独自の文化が発展したことはいいことだと思う。【文化・技術の発展】</p> <p><u>武士派</u></p> <p>・奈良時代の貴族は農民から生活を支えてもらっていたが、鎌倉時代の武士は、農民と同じような生活をしてきた。【身分差（生活）】</p> <p>・平氏が始めた貿易によって宋銭が流入し、貨幣経済が発達したことは、日本の経済に大きな影響を与えたと考えます。【文化・技術の発展】</p>	<p>2-(1) <u>根拠となる適切な資料を提示し、事実とそこから考えられることを分けて発言するように促す。（C）</u></p> <p>2-(2) <u>それぞれの意見を比較・検討できるように、児童の発言のポイントになる言葉を板書したり、矢印でつないだりする。（A B他者）</u></p> <p>2-(3) 多角的に議論できるように、農民・貴族・武士など、どの立場で話しているのかということについて問い返す。</p>
<p>(2) 意見交換を行う。</p> <p>・奈良時代の農民は、質素な食事しかとれていなかったもので、よい社会とは言えない。【食料】</p> <p>・御恩と奉公で、御家人の努力が認められるようになっていたが、元寇後に御家人に不満を抱かせてしまったのはよくないと思う。</p> <p>・平氏も藤原氏と同じようなことをやっていたので、他の貴族や武士の不満が高まっていた。平氏の登場によってよい社会になったとは言えない。</p> <p>・平安時代もたくさんの争いが起きていたので、平和な世の中ではない。【争い】</p>	<p>◆ 「追究の視点」を基によりよい社会について考えているか。（発言・ノート）【思・判・表】</p> <p>B 資料を示しながら「追究の視点」を用いてよりよい社会について発言している。</p> <p>C→ 「追究の視点」に関連した発問や問い返しを行うことで、よりよい社会について考えられるようにする。</p>
<p>3 議論を通して考えたことを基に、どちらの時代がよりよい社会だったのか意思決定する。（10分）</p> <p>・武士の世の中になり、争いが人々にとって身近なものになっている。貴族中心の時代の方が安心して生活できていたと思う。今の時代も戦争が起きている地域の人々は苦しい生活を送っている。【争い】</p> <p>・農民の食事は、どちらの時代でも貧しいものだった。今の世の中にも十分な食事をとれない人がいるから、そういう人がいなくなる世の中がよい社会だと思う。【食料】</p>	<p>2-(4) <u>事実に基づいた議論となるように「追究の視点」を基に質問するように促す。（他者）</u></p> <p>3-(1) よりよい社会について意思決定することができるように、それぞれの資料や板書を基に2つの時代を確認する。</p> <p>3-(2) よりよい社会を選択するために、最初に考えていた時代とは異なる時代を選んでもよいことを確認する。</p> <p>3-(3) 根拠のある意思決定となるように、選んだ理由の中に、「追究の視点」を入れるように促す。</p> <p>3-(4) 本時の議論において、新たに「追究の視点」となるものがなかったか確認する。</p> <p>3-(5) <u>現在の社会における課題と関連付けながら、よりよい社会のあり方について考えている児童がいれば、全体で共有し価値付けをする。（D）</u></p>

